

## ■ &lt;巻頭言&gt;

大学のスクール化 / 奥野 武俊 ..... k8-2

## 特集：

## 教育カリキュラム

- 現在の大学組織と教育カリキュラム ..... k8-3
- 海洋システム工学科のファカルティ・デベロップメント ..... k8-3
- 学校設備は今 ..... k8-4

## ◆表紙絵◆

「緑陰の滝」

岡田 博雄

## ◆表紙デザイン◆

平岡 良介

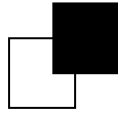
(大学 49 期)

- 至誠寮 同窓会報告【 第2回 】 / 杭田 嘉夫 ..... k8-5
- 新任のご挨拶 / 柴原 正和 ..... k8-6
- 新任のご挨拶 / 余 志興 (ユウ チシン) ..... k8-7
- 退職のご挨拶 / 前川 めぐみ ..... k8-7
- ごあいさつ / 小塚 由里子

- 第7回総会のご案内 ..... k8-8
- 友好祭模擬店参加者募集
- 理事会報告 / 会計報告
- 平成16年度 海洋システム工学科  
博士・修士論文ならびに卒業研究テーマ ..... k8-8
- 会員録 update

## ■ 編集後記

「鷗朋」編集委員 岩崎 泰典(大学 20 期) 岸 光男(大学 25 期) 竹田 太樹(大学 30 期) 三宅 成司郎(大学 30 期)  
野口 利仁(大学 33 期) 池田 和外(大学 35 期) 坪郷 尚(大学 39 期) 片山 徹(大学 41 期)  
牧野 功治(大学 41 期) 中谷 直樹(大学 45 期) 奥村 英晃(大学 46 期) 田角 宏美(大学 47 期)



先日(2月)、今年の受験生の数が発表になったが、工学部の受験志願者数は昨年より少なくなっていた。長い目で見て、全国的に受験者は少なくなっていくのは間違いなく、大学進学を希望する学生は必ず“どこかの大学”には入れる、いわゆる全入時代がすぐそこに来ることが分かっている。ただ、これは統計上のことで、府立大学工学部を希望する学生がすべて入学できるわけではないので、心配することは無いという方もいるが、志願者が少なくなることは、受験環境が変わることなので、やはり重大な問題と思われる。

一部の私立大学では、受験生を確保するのが大変なり、経営が困難になって廃校するところも報道されているが、本学工学部は、いわゆる“中期日程”と呼ばれる、国立大学とは異なる入試日程を設定しているの、他大学との併願が可能であり、高い倍率が保たれるはず・・・と考えられている。確かに、それはひとつの見方であり、受験倍率は簡単には変わらないと思われるが、入学してくる受験生の質(というのか、雰囲気というのか、学生の文化のこと・・・)は、すでにかなり変わってきている。ただ、そのことをさほど重大には考えていない教員が多いように思えて、危惧している。

例えば、講義の時に板書していると、「大切なことは線を引いてください」と言われたり、研究指導で少し厳しくすると、「先生は、何をすればいいのかわかなくていい(研究指導をちゃんとしてくれない)」と言われたりすることがある。多分、昔の人には信じられないような言動と思われるが、これは現実である。問題なのは、いまだに多くの教員は、そのような学生を見ても、それがほんの一部であることなどを理由に、自分が学生だった頃(“ひとむかし”)も“ふたむかし”)も前の話なのだが・・・)のことを、学生に語る。たとえば「私はおもしろくない講義など、ほ

とんど出なかったけど、ちゃんと勉強した」とか、「学生の時に大切なのは講義を聞くことでなく、自分で考えること・・・」など・・・。確かにそれらは、けっして間違っていないが、最近の学生には正しく伝わらないことを気に留めていない。多くの学生(特に新入生)は、高校と大学の間に、なんの違っても期待していないし、求めもしない。そのため、講義は知識を吸収するところと考え、疑問に思ったところを自分で調べたり、本を読んだり・・・自立的に考える人は少なくなっている。「それは講義で習っただろう?」という教員の言葉に、「テストには出なかったから、大切でないと思っていた・・・」と言ったりするのである。「大学生になったのだから、大人として考えなさい・・・」と、よく言われ続けてきた。当たり前のことが、そのようには理解してもらえないのである。

このようなことを、大学のスクール化と呼んで、多くの大学がそのための対策を考えている。これは、昔の進学率は都会でも50%程度であったが、最近では90%以上になっており、もはや、大学は特別なところではなくなっていることが大きな原因と言われている。誰でも大学に入学できる時代になっているので、進学に当たっては、何のイニシエーションも必要としない。講義に対する学生のアンケート(評価)には、「先生はよく、大人として考えなさいと言われるが、どうすればそれができるのか、何も教えてくれない」とか、「そういう先生に限って、講義することに対する情熱が全く感じられない」と書いている。これらは、学生の求めているものと、大学が提供しているものとの間に大きなギャップがあることを表している。

府立大学工学部では、まだ大きな問題になっていないように見える、この“スクール化”は、もっと大きな問題になるように思われる。これを解決する簡単な方法は、そのような学生を受

験で見分けて、不合格にすればいいが、多分それができる大学は、日本でわずか数校だけであろう・と言うのが大方の見方である。

ただ、誤解してほしくないのは、クラスの全員がこのような学生では無いことで、確かに、一部の学生なのではあるが、決して特別なことではないことが大切である。小・中学校や高校では、このような学生の予備軍に対するケア方法を研修しなければならないが、大学ではそのようなことはなく、多くの教員は無防備であり、そのうちトラブルが表面化するのではないかと感じるのである。もし、このまま進めば、いまでもかなり研究に比重を置いた大学教員が、それを通して専門教育するとい

う形が取れなくなる可能性は高く、とにかくこれまでのような教育手法は通用しない。したがって、とても手のかかる教育をしなければならぬと思われるが、ヨーロッパも、アメリカもすでにそのようになっているという事実は、明日の日本の大学を表しているように思える。

少々悲観的であるが、でも、それが事実であるならば、それを受け入れつつ、欧米の文化と異なる日本の大学にできる、特徴ある教育研究体制を求めることも可能かもしれないと思う。かなり難しいことで、最近の大学の頭の痛い問題のひとつである。

## 「鷗朋」第9号への原稿募集・・・ご自由なテーマでお書きください！

- ・仕事や趣味について、大学時代の思い出等、テーマは問いません。
- ・原稿は、郵便(原稿用紙やフロッピーディスク)、ファックス、電子メールなどでお送りください。
- ・分量については、柔軟に対応します。写真やイラストつきの原稿も大歓迎です！

締めきり：平成18年7月31日(月)

宛先：〒599-8531 堺市学園町1-1

大阪府立大学大学院工学研究科

海洋システム工学分野気付 鷗朋会事務局

TEL/FAX: 072-254-9914

E-mail: doso@marine.osakafu-u.ac.jp

### 「鷗朋」編集ボランティアを募集しています！

原稿テーマの企画など、より良く、楽しい「鷗朋」にするために、あなたの力をお貸し下さい！

ご協力頂ける方がおられましたら、自薦他薦問わず、鷗朋会事務局までご一報を・・・

# 現在の大学組織と教育カリキュラム

中谷 直樹(海洋環境計画講座)

平成十七年度春から、大阪府立大学は、大阪府立大学(旧)、大阪女子大学、大阪府立看護大学という異なる伝統を持った三大学が統合され、公立大学法人大阪府立大学として新たなスタートを切りました。今回は新しい大学の組織及び現在の教育カリキュラムについて、簡単にご紹介したいと思います。

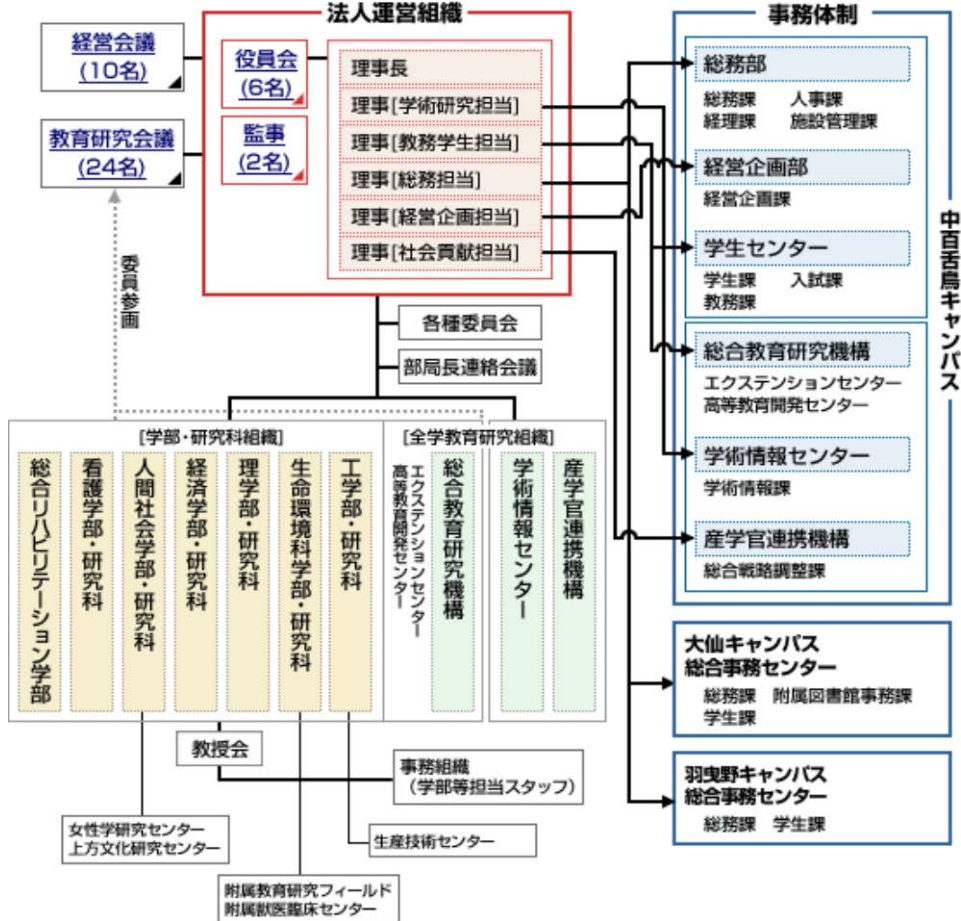


図1 大阪府立大学 組織図 (大阪府立大学 大学組織 HP より)

新しい大学は、図1に示すような工学部、生命環境科学部、理学部、経済学部、人間社会学部、看護学部、総合リハビリテーション学部の7学部からなっています。総合リハビリテーション学部以外の六学部はいずれも博士課程まで整えた大学院研究科が設置されています。また、総合教育研究機構という組織が設けられ、学部生の教養教育と専門教育に必要な専門基礎の教科の教科に重点を置いた教育が行われます。

大阪府立大学が目指すものとして、四つのキーワードが掲げられています。世界的研究拠点としての「知の創造」、高等教育機関としての「知の継承」、産学官連携による「知の活用」、公立大学法人としては重要な役割である「地域貢献」です。これを達成するために「産学官連携機構」などの新たな組織・機関も設置され、対外的な取り組みも始まっていますし、「高度研究型大学」を目指して大学院教育の充実が図られています。

次に、海洋システム工学科が所属する工学部の構成は図2のようになりました。

### 工学部・大学院工学研究科構成

\* ( ) 内数値は入学定員です。

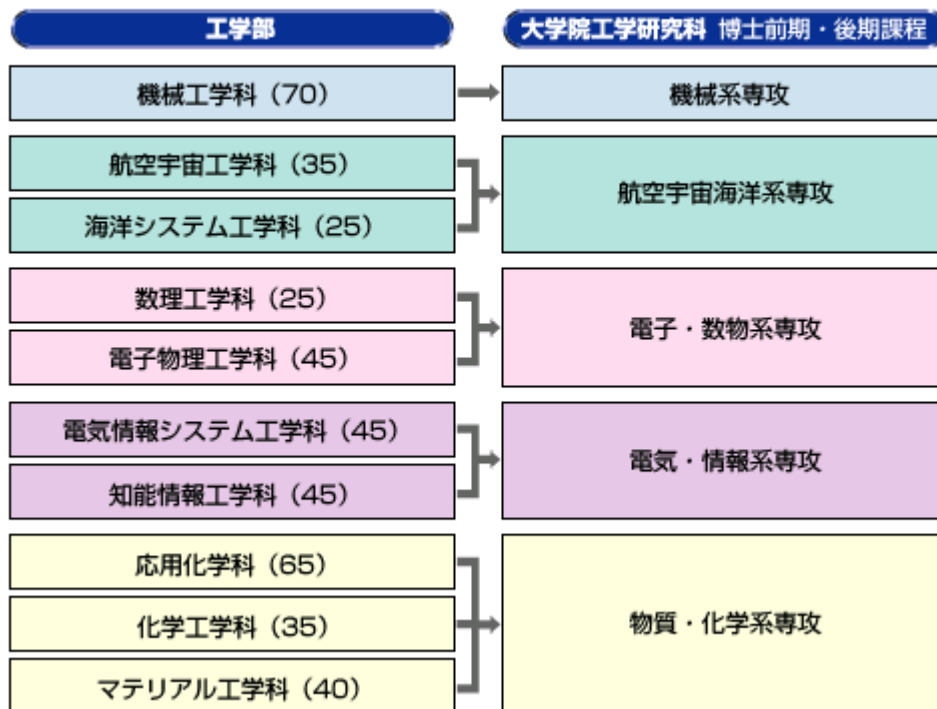


図2 工学部構成図 (大阪府立大学工学部 HP より)

従来と異なる部分は、学部では機械システム工学科とエネルギー機械工学科が一つとなって機械工学科に、機能物質科学科が応用化学科とマテリアル工学科に併合され、経営工学科は情報や電気系の学科と一緒にになりました。全体の入学定員も見直され、海洋システム工学科の定員が25名に減りました。また大学院工学研究科では、図のような5専攻に再編されたため、海洋は航空宇宙と同じ専攻となっています。

さて、このように組織も大幅に変化しましたが、それに伴って学生の評価方法も、17年度春の入学から大幅に変わっております。まずは卒業資格所要単位が134単位となり少し増えました。また単位の評価制度が変わりGPA (grade point average) というものが導入されました。これは各科目の点数を0~4のGP (grade point) に割り当て、

$$\text{GPA} = (\text{GP値} \times \text{単位数}) \text{の総計} / \text{総履修登録単位数}$$
というGPの平均値で成績を評価するというものです。注目すべきは分母が「総履修登録単位数」となっている点で、これまでのように申請できるものはすべて申請登録して、履修後に単位を取得する科目を選択する方法をとると、大幅に評価が下がってしまいます。学生は登録時に科目を厳選し、申請登録した科目については、がんばって良い点を取らないと評価が上がらない厳しい制度になりました。さらに、半期に受講申請できる単位数の上限を設ける、CAP制と呼ばれる制度も導入されました。これは、大学設置基準では「1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容をもって構成すること」が標準として決められており、「学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるよう努めなければならない。」とされているためです。現在の所、半期で25単位以内(成績上位者は+αされる)と定められているために、半期でもさぼってしまうと、この制度のために4年での卒業が難しくなります。このように学生にとっては、持続的な学習が求められる制度になっています。

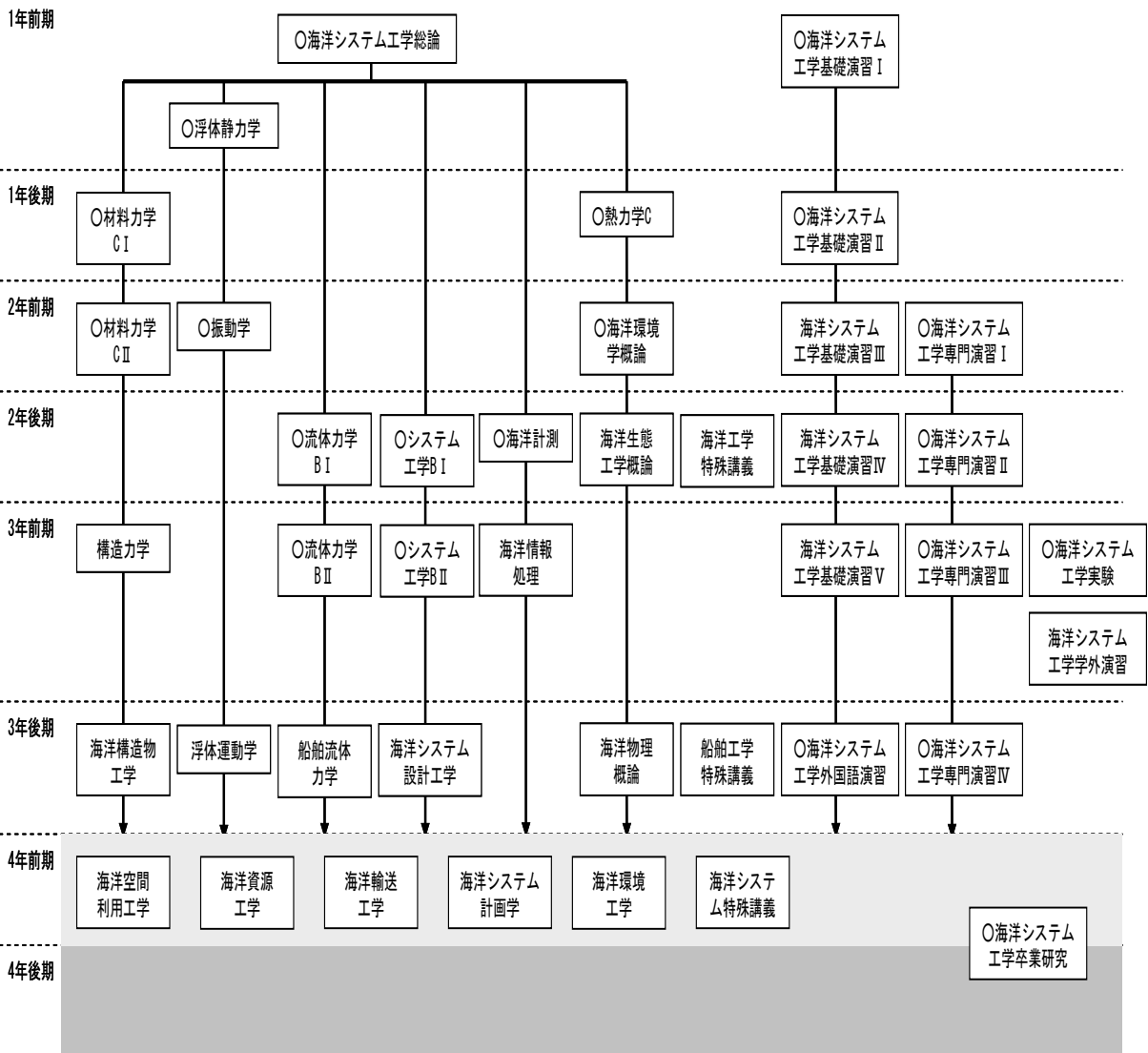
一方、評価する教員側にもこのような制度に見合った、授

業内容が求められています。学生にその評価を受け入れてもらうためには、シラバスと呼ばれる、授業の目標と成績評価の方法(出席、小テスト、レポート、中間試験、期末試験の割合を明示)、各回の授業内容を学生にあらかじめ提示し、その提示した方法に則って、授業・評価を行わなければなりません。このように、教える側も教えられる側にも一種の緊張感が生じるために、教育の質が高まることが期待されています。

それでは次に、海洋システム工学科の新しい専門教育プログラムをご紹介します。専門科目の履修フローは図3のようになっています。海洋システム工学に欠くことができない、材料・構造、振動・運動、流体、システム、計測、環境の6本のラインが形成され、それにしたがって履修するフローになっています。また基礎演習では、基礎的な専門科目とこれらを修得するために必要となる数学の演習を行い、専門演習では海洋システムにおける対象物の設計に重点をおいた演習がなされます。これら演習の一部や海洋システム工学実験には、学生が自ら考えて行動し問題を解決する能力を養うことを目的とした、「プロジェクト」と呼ばれる創成型教育プログラムが行われます。さらに、外国語演習という科目が追加され、国際的なコミュニケーション能力の基礎を身につけさせます。

このように、組織も教育カリキュラムも大幅にリニューアルして、スタートしました。学生諸君にはこの新しい教育体制を活用し、自らの能力を発掘、開発し、高い実践力を身につけていくことを期待しています。





ただし、工学部共通科目および他学科・他学部・他大学開講科目は標記されていない。〇印は必修科目

## 海洋システム工学科のファカルティ・デベロップメント

中谷 直樹(海洋環境計画講座)

### 1. FDとは

ファカルティ・デベロップメントという言葉になじみがない方がおそらく多いと思います。ファカルティ (faculty) という言葉は、大学を構成する各教官、及び教官団からなる教育機関、すなわち学部などの意味で使われています。つまりファカルティ・デベロップメント (FD) とは、大学・学部・学科やその構成員が自らの水準を高める活動を指します。具体的には、教育組織・施設の改善、教育課程の立案・開発・向上・評価手法の研究、及び教員自身の教育能力の向上に関する活動を意味しています。

最近、大学におけるFDの必要性が特に強調され、各大学では盛んにFDが行われるようになってきました。大阪府立大学も例外ではなく、「高等教育開発センター」が設置され、大学として教育内容・方法の改善に組織的・恒常的に取り組むことが求められています。ではなぜFDが必要なのでしょう。その背後には①大学の社会的教育責務の明確化、②大学教育を教員中心から学生中心へ移行することの教員の意識改革、③大学生の質の変化への対応が求められていることにあります。今日、社会は急速に変化し、グローバル化、情報の膨大化が急速に進行して、活動の経済性を求められています。この中で大学は社会的存在としての責務をより明確にしていく必要があり、とくに教育責務が問題となってきています。少子化が進み、入学生の基礎学力や自主性の低下などが当たり前となる一方で、大学は社会に対して学力・知力を持つ人材供給源として、広く世界を相手に自律した卒業生を輩出する必要があります。つまり大学の教育的責務が大きくなっているのです。したがって、教員がいるから大学が存在するといった今までの定義から、社会的に大学生には教育が必要であり、学生の学習支援と

して教員が存在することに意識を変換しなければ、社会ニーズに答えることができないようになってきています。さらに、明確な問題意識や目的意識を持たずに、受験のための知識のみ身につけて大学に進学するために、知的好奇心にもとづいた自発的、自主的な学習の術を知らず、自ら考え行動することができない学生が多くなっているといった、大学生の気質の変化に対応するためには、それに見合った教育改革を行っていかねばならないのです。

### 2. 海洋システム工学科におけるFD

さて、大学では大学全体のFDのみならず、教育現場に近い学科単位のFDを行うことが求められています。実は海洋システム工学科では10年以上も前の平成5年度に、海洋システム工学の学問としてのあるべき姿を模索する、「海洋システム工学研究会」が発足し、その研究会において、海洋システム工学という学問の教育のありかたについて議論がなされていました。つまり今で言うFDが昔から行われていたこととなります。その後、平成16年から海洋システム工学科FDとして名前を変え、現在まで定期的に活動が行われています(表1)。内容は教育理念・目標の定義から始まり、カリキュラム・シラバスや入試の内容、JABEE(技術者教育認定制度)への対応、さらにHPや出前講義などの対外的活動についての議論・改善がなされています。また勉強のために講師による講演も行っています。今後、外部機関による大学評価やJABEE受審に向け、さらに学生や社会からの要請に対応するための教育改善システムを構築するためには、外部から教育の評価が行われることが必要不可欠であるために、同窓生の皆様にも評価をしていただく仕組みを設けていくことを目指しています。



表1 海洋システム工学科 FD(ファカルティ・デベロップメント)活動記録

海洋システム工学科FD(ファカルティ・デベロップメント)活動記録			
回	開催日	議事内容	配布資料
1	2004年5月7日	1) 演習/実験の方針について 2) 資料の保管要領について 3) 授業のシラバス作成について	1) JABEE認証のための教育資料の保管の件 2) シラバス・サンプル 3) 科目内容キーワード 4) 開設する授業科目についての講義等の内容 5) 平成17年度授業科目および担当者一覧
2	2004年6月8日	1) 演習/実験の方針について 2) 研究室配属について 3) JABEE関連について	1) プロジェクトの支援体制について
3	2004年7月13日	1) 専門演習の内容について 2) 外国語演習の内容について	1) H16年度設計演習および外国語演習シラバス 2) H17年度専門演習および外国語演習シラバス 3) 外国語演習意見 4) 科目対応表
4	2004年9月17日	1) 海洋における検討課題について 2) 専門演習の内容について 3) 外国語演習について 4) 特別講演「金沢工業大学におけるJABEEへの取り組み」深澤澤塔	1) 海洋における検討課題(教室会議資料) 2) 「金沢工業大学におけるJABEEへの取り組み」JPP資料 3) 専門演習の内容についての検討
5	2005年1月14日	1) H17シラバスについて 2) JABEEの対応表について 3) AO入試について	1) H17学部時間割, 大学院時間割, 履修の手引き, シラバス 2) JABEE対応表 3) 徳島大学シラバス(参考資料) 4) 山口大学教育理念(参考資料) 5) AO入試関連資料
6	2005年3月18日	1) JABEE研修会の内容について 2) シラバスの作成および学科の理念について 3) GPAおよびCAP制度について	1) JABEE研修会資料 2) GPA/CAP制に関する資料 3) 学科理念とその標語化に関する資料
7	2005年4月11日	1) 海洋システム工学科の教育理念について 2) JABEE認定と海洋カリキュラムの関係について 3) 授業詳細シラバスについて	1) 工学部教育理念・目標と標語案 2) JABEE認定基準と海洋教育目標と対比 3) 化工学生向けJABEE関連資料 4) 海洋教育目標対応表 5) 授業詳細シラバス案
8	2005年7月19日	1) JABEE認定と海洋カリキュラムの関係について 2) 詳細シラバスについて 3) GP, GPA, GPCとその対応 4) キャッチフレーズ	1) 海洋システム工学科の理念キャッチフレーズ案 2) 海洋教育目標対応表 3) 自己点検書 4) Student Outcomes Goal 5) GPA対応の誠意度評価 氏香
9	2005年10月2日	1) 電気・電シスの動きについて 2) キャッチフレーズについて 3) シラバスについて 4) 創成型科目について 5) 卒業研究のシラバスについて	1) FDの進め方について 2) キャッチフレーズ 3) 自己点検書 4) Student Outcomes Goal 5) GPA対応の誠意度評価
10	2005年11月28日	1) 大学院入試へのTOEICの導入について 2) 出前講義への取り組み方について 3) 授業アンケートについて 4) 学習教育目標と対応表およびシラバスについて 5) 教育改善システムについて 6) HPの充実について 7) 学習保証時間について	1) 学習教育目標 2) 各授業科目と学習教育目標と対応表 3) 詳細シラバス

# 至誠寮 同窓会報告〔第2回〕

大学6期 杭田 嘉夫

## 其の後の活動について

2001.1.31.発行(ふね最終号)に至誠寮同窓会について掲載させて頂きました。其の後の活動について(KEKIHO)同窓会誌をお借りして述べさせていただきます。

昭和24年に新制大学が始まって既に60年に近い年月が経過しました。推定同窓生は2000名と考えられますが当初古い方から名簿を集め現役に至る手法を考えましたがこの手法は行き詰りました。

名簿と共に始めました至誠寮に寄付する資料の蒐集活動はほぼ順調に進み現在は旧制高校の資料蒐集活動中で全国各地で開催されている寮歌祭巡り及び旧制高校の跡地と記念碑の調査中でこの活動を通じて多くの旧制高校各校の同窓生の方々からご援助を頂き此の点では全国の新制大学の学生寮の中では日本一の蒐集が進行中です。

旧制高校生はこの60年間我々が何もしなかった年月に驚嘆する様な活動を続け大きな成果を残して居られますが一番若い人で75才と老化し、同窓会も解散期に入っており最終局面になっています。

一方私達も年々死去される方も増えつつあり私自身も何時終末を迎えるか分からない状況になって参りました。同窓会として解決しなければならない点、又やらなければならない事は山の様に有りますが残された時間は少なく、私達が倒れた後後世へ引き継ぐ方途を考えなければならない時期に至りました。

同窓会は高知高校の80周年記念祭で初代校長先生の胸像の前で同窓会長が学恩と言う事を言われました。我々の人生の中で最も重要な時代は大学で有り大きな恩を受けております。報恩が同窓会の中心的な動機で有ります。現代モラルが崩壊し薄れていますが大学の発展、至誠寮の発

展を誰もが願って居ります。

至誠寮の充実が同窓会にとっても確立と発展の重要な要素になります。先の同窓会で至誠寮の現役生を招待し、こんご自治会発行の名簿及び重要事項の保存を依頼しました。

平成19年に至誠寮65周年記念祭をし記念事業として蒐集資料の寄付と記念碑の建設を準備中です。記念碑は寮歌歌碑と大阪高等工業至誠寮跡の立柱碑を予定して居ります。これは至誠寮の起源を明らかにすると共に至誠寮に係る大阪高工、工専、大学、我々新制同窓生及び現役寮生の言わば墓とも言ふべき拠り所としたい。又現役生との交流を図る出発点にしたいと思ひます。

至誠寮の起源は大学発行の(工学部誌)によりますと

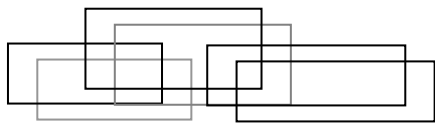
昭和17年11月14日(1942年)	完成
昭和17年11月28日(1942年)	竣工修飾式
昭和18年5月22日(1943年)	開寮式

となつて居ります。今回は諸般の事情から至誠寮完成の日を採用し平成19年11月14日に至誠寮65周年記念祭を行いたいと思ひます。今後は5年毎に記念祭を行い記念事業を行つて至誠寮の環境改善を行う予定です。

この事業は記念碑の建設、記念庭園、並木の植樹、門の建設を行い最終は記念館の建設を目指します。今回実行します記念庭園の建設は大学の許可がなくては実行出来ません。残念ながら我々の同窓会は、ひよこ、の段階で有ります。許可を頂くのが困難でないか心配して居ります。主催を大阪工専の先輩の方々へお願いしたい。記念碑の建設費は略々見通しが立つて居ります。若干の整地費がお願い出来れば尚有り難い次第です。記念庭園を造りその中へ記念碑を建てますが庭園は今回は土盛り等最小限の工事に止め次回の70周年記念祭でやりたいと思ひます。お引き受け

頂きますれば諸資料をお送りしご相談したいと思います。

同窓会活動にとって又至誠寮の将来に重要な関係を持ちます所の現在私が実行中の活動をご参考までに書きたいと思いますが大量になりますので連載にさせて頂き今回は【同窓会活動の中核としての理想と旧制高校について】を掲載させて頂きます。



### 同窓会の理想と旧制高校

至誠寮同窓会活動を始めました初期香川大学の屋島寮を訪ねました。香大の場合学園紛争を沈静化する為女性事務官が派遣され苦勞された話を聞きました。寮生の活動の変遷やら広島銀行の頭取りに出世した同窓生が奥さん同伴で訪ねて来た話も聞きました。

高知大学の南冥寮を訪ねました。丁度大学法人化の渦中で寮に対する大学の補助も削減過程で賄いを停止された頃で昔と違い反対運動はせず寮生負担で人を雇って賄いを続行しているとの事でした。旧制高知高校の寮歌は歌っているとの事でした。

何れにしても学園紛争は終焉した実感でした。当初全国の学生寮を訪ねようかと思っ居りましたが残念な学ぶべきものが無く新制大学の学生寮は何処も同じと思われ之れは中止しました。寮歌祭のついでに京大の吉田寮と東北の明善寮は玄関まで参りました。

平成14年3月東京大学の地下食堂で開催された東京寮歌祭に出席しました。正門から入って両側に大銀杏の並木があり正面奥に有名な安田講堂があります。丁度シートに覆われて修理が行われていました。学園紛争の最中過激派学生が立てこもって警官隊と放水投石合戦が行われた所で外壁には弾痕風の浅い多数の穴があいており申し訳ない気持ちでした。其の翌年だったか新聞に小さく駒場の学生寮が撤去されると言う記事を見ました。丁度学生寮不要論の広まりそうな雰囲気があり至誠寮の運命にもつながりそうで心配しましたが其の後再建されたとの事でした。

同年10月、新宿のNSビルで日本寮歌祭があり出席しました。石原都知事が長文の祝辞を贈られ、其の中で都立各大学を集め全寮制の大学を造ると言われましたが学生数が多数で之れは不可能ですが昨年の第45回日本寮歌祭の祝辞では全寮制では有りませんが学生寮をつくったと述べておられました。

現在上位大学は優秀な学生の争奪戦をしております。至誠寮に旧制高校のように全国から優秀な学生を集め、石原都知事は日本一の大学を造ると言われましたが我々は日本一の学生寮をつくり、此の寮が有るから府立大学へ来ると言う至誠寮をつくらなければ成りません。其のような努力が永遠の至誠寮をつくる道と考えます。

### 学園紛争のトンネルを抜けて 掲げる理想は何か

文化とスピリット、で有り教科書は旧制高校であることを数年の活動の中で確信しました。昭和36年当時新制大学は学園紛争の時代でした。教育の荒廃を憂え、日本の将来を心配した山形高校の神津先生が寮歌振興会を組織して全国の各高同窓会に呼びかけて文京区公会堂で第1回日本寮歌祭を開催して今年で46年に成ります。

この運動は燎原の火のように全国に広がり各地に寮歌祭が開催され同窓会を活性化させ各高校は5年又は10年毎に記念祭を行い寮歌の発掘をし、寮歌集、CD、音楽テープの作成、資料の蒐集、記念館又は資料室づくり、記念庭園と記念碑の建設、校地施設の保存活動、旧制高校教育の出版、教育改革運動等素晴らしい活動がなされました。これ等について色々な角度から連載で記述させて頂きます。

ここで誤解を生じませんように加筆させて頂きますが私達は大学の批判をしたり要求したり影響を与えようと言う事では有りません。旧制でも新制でも大学は高度な研究と教育を行う所で人間教育の場では有りません。我々と旧制高校の間には大変な格差があります。大学生は最高の知識階級でなければなりません。人格形成と知識量で湖と水溜りの差を感じました。何かをちょっと直せばと言うような簡単な事ではありません。之れから長い年月をかけて全体を1階級底上げし10人に1人日本で通用する人材を輩出しなければならぬと思っています。



# 新任のご挨拶



## 海洋システム工学科助手 柴原 正和

昨年4月1日より海洋システム工学分野の助手に着任致しました、柴原正和(しばはらまさかず)と申します。この度、伝統ある賜朋会に入会させて頂き、大変光栄に思っております。この場をお借りし、簡単ではございますが、賜朋会の皆さんに自己紹介をさせて頂きたいと思っております。

### 略歴

- 平成 5年3月 近畿大学附属新宮高校 卒業
- 平成 9年3月 大阪大学工学部 船舶海洋工学科 卒業
- 平成 11年3月 大阪大学大学院 工学研究科 博士前期課程 船舶海洋工学専攻 修了
- 平成 14年3月 大阪大学大学院 工学研究科 博士後期課程 船舶海洋工学専攻 修了(博士(工学)取得)
- 平成 14年4月 金沢工業大学 工学部 工学基礎実技教育コア 助手
- 平成 15年4月 金沢工業大学 基礎教育部 工学基礎実技教育課程 講師
- 平成 17年4月 大阪府立大学大学院 工学研究科 航空宇宙海洋系専攻 海洋システム工学分野 助手

### 生まれ・育ち

私は、昭和49年和歌山県に生まれ、一昨年に世界遺産に登録された熊野古道が目と鼻の先にある、那智勝浦町宇久井(うぐい)という自然豊かな町に育ちました。幼少期から両親に連れられ、また、小学校の遠足などで熊野古道を歩き、知らず知らずのうちに自然の魅力を感じながら育った気がします。

宇久井は漁師町であり、また、私の実家が海岸線から数十

メートルのところにあっただため、明け方になると漁に出かける小型船のエンジン音で目が覚めたことを良く思い出します。今考えると、その頃から、海や船舶に対する関心が深まっていったのではないかと思います。

中学校では野球部、高校ではソフトボール部に所属していたせいも、今でもほとんどのスポーツに興味があり、テレビで放送されるスポーツ番組にはついつい目がいってしまいます。

### 大学時代

私は、平成5年4月に大阪大学船舶海洋工学科に入学しました。ド田舎出身ということもあり、入学時には大阪の学生達にカルチャーショックを受けたことを鮮明に覚えています。遊び、勉強、バイト、常識、……。私の知らない世界がそこにはあり、いろいろな意味で日々必死に勉強していた記憶がございます。

そのような中、なんとか4年生まで辿り着き、大阪大学船舶海洋工学科の協力講座である接合科学研究所村川英一研究室に配属になりました。そこで御指導頂きました村川教授の妥協を許さぬ姿勢、物事に取り組む際の考え方、結果を出すことの重要性、計算シミュレーションの魅力等々、これまでの私の人生とは全く違う学問の世界がそこでは展開されており、今考えてみても、かけがえのない7年間だったと思います。

## 近況

家族は妻と長男(4歳)長女(8ヶ月)と私の4人で、堺市に畑付きのアパートを借りて住んでおります。この歳になって初めて、1年通じて栽培する畑作業のすばらしさを実感しております。春に蒔かれた種が成長し、暑い夏を凌ぎ、収穫の秋を迎える。夏の厳しい暑さの中でどれだけ手をかけたかで実りが決まる。成長する人参や大根たちに感情移入してしまっている今日この頃です。

## 趣味

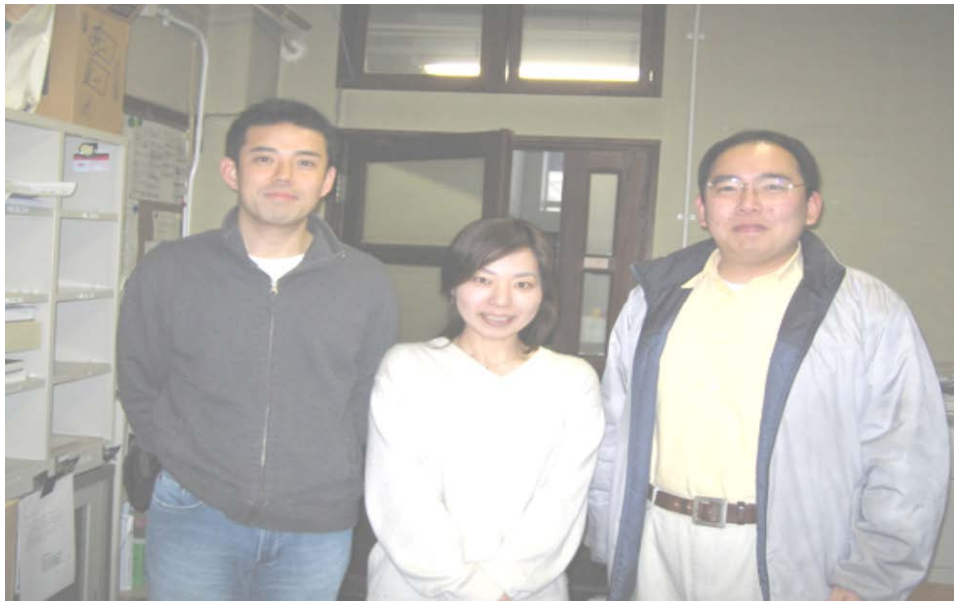
昨年まで暮らしていた金沢では、家族と、また、同僚の先生達とよくグルメツアーに出かけていました。特に、ラーメンが専門で、金沢にいた3年間で、知らない店がないくらいになりました。ちょっと言い過ぎました。また、最近、ベルト付近

が限界に近づいてまいりましたので、ソフトボールでも再開してみようかなと考えているところです。いいチームがございましたらお知らせ下さい。

## 最後に

こんな私ではございますが、海洋システム工学科に受け継がれた伝統に早く馴染むよう、まずは、その主役である学生達と距離を置かず接するように心がけております。大学で私を見かけましたら、お気軽にお声をかけて頂けると何よりの幸せです。

益々の学科繁栄のために、微力ながら精一杯努力して参りたいと考えておりますので、今後とも御指導御鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。



# 新任のご挨拶

海洋システム工学科助手 余 志興(ユウ チシン)



平成 11 年 9 月に上海交通大学船舶与海洋工程系博士課程を修了し、上海交通大学ポスドク研究員九州大学助手を経て、平成17年4月に航空宇宙海洋系専攻海洋システム工学分野助手として着任しました。主な研究対象は、粘性流体の流体弾性、超多数の浮体群にかかる波力、海洋環境数値計算モデルなどです。今後、数値計算(CFD)の手法をこれらの分野における既知の問題へと適用し、数値実験を行いたいと思っています。これには、より高精度でより高速な数値スキームの開発、および非構造格子の利用が含まれています。数値計算の手法に加えて、これらを理論的に評価することにより、新しい手法の基礎を築くことができると考えています。科学の発展に貢献し、大阪府立大学の発展の一端を担えるように、教育と研究に邁進したいと思いますので、何卒ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

## ■ My Life

I grew up beside the mouth of Huanghe River, where is famous for the Shengli Oil-Field, under a strict and traditional family education by my parents, a senior engineer and a high-school teacher. I entered the Wuhan Water Transportation University at the age of 18. Since then, I began a single life drifting from one city to another, until I was fated to meet the girl, later became my wife, who shares the happiness with our child and aims the same directions with me all the time.

## ■ Student Path

The way began from the Naval Architecture and Ocean Engineering to the present time. During the first two years, I was deeply interested in studying Computer Science. Thus it became the second bachelor degree when I graduated. I was selected by Prof. X.-H. Wu, the president of the University to continue the master course, who directed me in studying the numerical simulation of ship maneuverability in confined waters. In 1996, he recommended me to enter Shanghai Jiao Tong

University and be supervised by Prof. Y.-Z. Liu and Prof. G.-P. Miao. In the 4-year doctoral period, I studied the vortex induced vibrations using the finite volume method as well as the wave forces upon large amount of piles mounted in the sea.

## ■ Research Career

I first worked in Shanghai Jiao Tong University for two years, continuing the previous subject and extending my research interests. Cooperating with multi-disciplinary team members, I studied the ship lifter system drafted in the Three Gorges' project. In 2002, I was transferred to Kyushu University working with Prof. Kyojuka in the project of Multi-scale Ocean Environmental Simulator (MOES). At this time, I studied applications of the finite element in ocean environment problems and developed a new model using discontinuous element method.

To sum up, research is an important part of my life. However, there are more, i.e. working with people, feeling the wonderful world and sharing with friends  
...

# 第7回総会のご案内

先日、お知らせいたしましたとおり第7回総会が以下の日程で行われます。是非ご参加下さいますよう重ねてお願い申し上げます。なお会場の都合により出欠のお返事をまだご連絡頂いていない方は、電子メール・ハガキ・FAXの何れかの方法にて、4月21日(金)までに賜朋会事務局あてにご連絡下さい。

日 時:2006年4月29日(土)13:00~17:00

場 所:大阪府立大学学術交流会館

スケジュール:

□講演会(多目的ホール)13:00~15:00

13:00~13:30 「公立大学法人大阪府立大学の誕生と今後の方向性」  
奥野武俊 工学研究科長

13:30~14:00 「海洋システム工学科における最近の教育研究活動」  
大塚耕司 学科ファカルティ・デベロップメント(FD)担当

14:10~14:50 「欧州における新しい海事産業の復興」  
池田良穂

□第7回総会(多目的ホール)15:00~15:30

会長挨拶

議 事(各種報告, 役員交代の件協議等)

記念撮影

□懇親会(ロビー)15:30~17:30

新会長挨拶

功労者への表彰

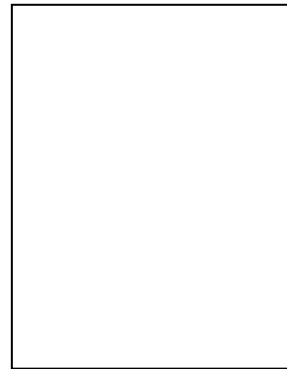
ポスターセッション

(会費 一般6,000円・学生1,000円)

申込先:賜朋会事務局

TEL&FAX:072-254-9914

E-mail : doso@marine.osakafu-u.ac.jp



# 友好祭

## 模擬店参加者募集

大阪府立大学の三大祭のひとつ、友好祭が今年も5月末に行われます。旧三大学の学生が一度に集まる一番にぎやかな学園祭ですが、なんと今年で45回目を迎えます。友好祭での思い出がある方は、たくさんいらっしゃるのではないのでしょうか？

今回、同窓生の皆様に大学に足を運んでいただく機会を作る目的で、鷗朋会として友好祭への模擬店出店を企画します。昔を思い出しながら、現在の大学の現状を見たり、在校生と触れ合ってみるのはいかがでしょうか？ 多数のご参加をお待ちしています。

◇ 日 時 : 2006年5月27日(土) 28日(日)

◇ 場 所 : 大阪府立大学内

※ ご質問および参加希望される方は4月28日(金)までに事務局までご連絡下さい。

### \*宛先\*

〒599-8531 堺市学園町1-1  
大阪府立大学大学院工学研究科  
海洋システム工学分野気付 鷗朋会事務局

TEL/FAX: 072-254-9914

E-mail: [doso@marine.osakafu-u.ac.jp](mailto:doso@marine.osakafu-u.ac.jp)





# 大阪府立大学工学部 鷗朋会 第43回理事会報告

日時:2005年11月15日(火)18:00~20:00

場所:たかつガーデン 3階 ローズ

出席者:増田会長(大 10), 定兼副会長(大 15), 奥野副会長(大 18), 田中(造 3), 片岡(大 2), 金田(大 5), 岡本(大 5), 山路(大 6), 山岡(大 7), 杉山(大 12), 出口(大 13), 吉久(大 13), 西田(大 17), 池田(大 21), 池田(大 35), 有馬(大 37), 山田(大 37), 坪郷(大 39), 片山(大 41), 中谷(大 45), 桂樹(大 50), 前川(事務局) 以上22名(敬称略)

1. 開会:中谷理事より開会が宣言された。
2. 会長挨拶:議事に先立って, 増田会長より挨拶があった。
3. 議長選出:中谷理事より定兼副会長が議長に推薦され, 満場一致で選出された。

**4. 議事:**

**(1) 報告事項**

**a) 平成17年度会計中間報告**

池田会計担当理事より資料に基づいて平成17年度会計の中間報告があった。

- ・会費収入は, 会誌発送時にもう少し見込めるので, 当初の予定通りになると考えられる。
- ・役員費は, 会誌の編集作業交代により, かなりオーバーする可能性がある。
- ・事務費, 印刷費は予算通りである。
- ・会誌の発行および事務局アルバイトで, 繰越金が100万円程減ることになった。

**b) 編集委員会報告**

坪郷編集担当理事より資料に基づいて編集委員会の報告があった。

- ・ニューズレターを7月に発行した。
- ・会誌第9号を11月末に発行する予定である。
- ・2006年3月に発行予定の「鷗朋」第8号に総会出欠はがきを同封する。

**c) 鷗朋会事務局員の交代について**

中谷理事より資料に基づいて事務局員の交代について報告があった。

**d) その他**

奥野副会長より最近の大学について報告があったが, 特に大きな話題はないとのことである。

**(2) 協議事項**

**a) 平成18年度会計予算に関する件**

池田会計担当理事より資料に基づき平成18年度予算について提案が

あった。

[修正箇所] 前期繰越額(誤) 529,778 → (正) 469,778

合計 (誤)2,569,778 → (正)2,509,778

※ 収入・支出の2箇所

次期繰越額(誤) 265,778 → (正) 205,778

- ・役員費は超過することが多いので多めにとっている。
  - ・会議費が大きいため, 理事会を大学で開催したいという提案があった。
  - ・ニューズレターの見直し, 若手理事の見直しを検討してはどうかという意見が出された。
- 協議の結果, 平成18年度予算案は承認された。

**b) 総会について**

中谷理事より資料に基づき総会のスケジュール案の説明があった。

- ・総会を13:00~18:00に開催することとし, 午前中に理事会を開催する。

・増田会長より, 役員の交代を検討している旨説明があった。理事会で決定し, 総会で報告する。

**c) 理事交代に関する件**

中谷理事より資料に基づき理事の交代が提案され, 満場一致で承認された。

**5. 閉会**

中谷理事より閉会が宣言された。

以上

## 平成18年度会計予算案

(H.18.4.1-H.19.3.31 単位:円)

収入の部		支出の部	
前期繰越	529,778	振込手数料	56,000
		通信費	275,000
同窓会会費	1,600,000	役員費	814,000
理事会会費	50,000	会議費	80,000
総会参加費	390,000	事務費	70,000
小計	2,040,000	印刷費	356,000
		備品費	50,000
		雑費	3,000
		総会費	600,000
		小計	2,304,000
		次期繰越	265,778
合計	2,569,778	合計	2,569,778

## 博士・修士論文ならびに卒業研究のテーマ

### 博士論文 (博士後期課程)

(指導教官)

池田 和外	(細田)	表情による基本感情の評価に関する研究
小嶋 貞二	(細田)	海洋波浪計測におけるマリンレーダーの適用に関する研究

### 修士論文 (博士前期課程)

(指導教官)

浅井 仁	(姫野, 田原, 勝井)	新しい平板摩擦抵抗係数算定式の提案とその検証
市来 隆彦	(奥野, 中谷)	西部熱帯太平洋海域における密度境界面の変動に関する基礎的研究
桂樹 哲雄	(馬場)	重力流の発達段階の遷移に関する基礎的研究
古水 就也	(姫野, 田原, 勝井)	随伴変数法を用いた二次元翼形状改良問題に関する研究
武内 祐二	(池田, 片山)	巨大客船の損傷時浸水中間段階における挙動に関する実験的研究
壘谷 龍人	(田原, 姫野)	自由表面影響を考慮したマルチブロック RaNS 法によるアベンテージ付きアメリカ杯レース艇の流体力特性に関する研究
谷本 周太	(馬場)	三角形メッシュを用いた有限体積法によるナビエ・ストークス方程式の解法
遠山 智志	(田原, 勝井, 姫野)	CFD 援用多目的最適化手法の開発及び応用-特にタンカー船尾形状最適化について
夏目 匠	(馬場)	上昇気流の形成過程に関する研究
原田 真帆	(池田, 片山)	周期可変型アンチローリングタンクの減揺特性に関する基礎的研究
藤波 弘典	(細田)	閉鎖性内湾流場の推定に関する基礎的研究
八木 乙功	(正岡, 岡田)	曲げと圧縮を受ける円筒柱の崩壊挙動に及ぼす衰耗の影響の評価法に関する研究
矢野 健太	(細田)	沿岸海域環境に対する陸域流出負荷の影響把握・評価に関する研究

★浅井 仁君は【海洋システム工学分野 優秀論文賞】を受賞しました

## 卒業研究テーマ

(指導教官)

生田 方明 (大塚)	アオサのバイオマスガス化に関する実験
伊藤 藍 (池田)	ペンタマラン型高速 RORO 船の性能評価
太田 光一 (奥野, 中谷)	海水の硝酸イオン連続計測に関する実験
大道 典子 (正岡)	LNG船球形タンクシステムの座屈強度直接計算手法の構築に関する研究
岡 浩太郎 (田原, 勝井, 姫野)	マルチブロック CFD による UPWIND SAIL 流体力に及ぼす船体影響の検討
奥野 雅敏 (岸, 坪郷)	差分スキームによる津波シミュレーション・プログラミング
金子 武史 (片山, 池田)	高速三胴船の抵抗性能評価
金子 将大 (細田, 山田)	由良湾水・底質環境の変化 ー10年間の環境調査のまとめー
玄番 修 (岡田, 坪郷)	緊張係留式没水浮体の波浪中応答に及ぼす断面形状の影響に関する実験的研究
小泉 崇 (岡田)	剛体を有する柱状体の衝撃および波浪中応答に関する実験的研究
佐藤 啓介 (姫野, 田原, 勝井)	粘性流場の逆解析手法に関する研究
田村 裕貴 (細田)	浮体型廃棄物処理／再資源化システムの機能最適化に関する基礎研究
中島 敦子 (奥野, 中谷)	多様な生物種の変動を表す生物群集モデルの生物パラメータに関する検討
野田 裕久 (正岡)	コーナー形状が薄肉フレーム部材強度に及ぼす影響の研究
乗貞 光志 (姫野, 田原, 勝井)	船型フェアリングの自動化に関する基礎的研究
秦 睦弥 (細田)	アオサによる亜硝酸、硝酸の吸収の測定に関する研究
平松 宗也 (北浦, 岡田)	リボン鋼と銅の接触面における磨耗損傷と温度上昇挙動に関する実験的研究
福田 恵子 (馬場)	バンドウイルカの鳴音に関する調査
福本 茜 (片山, 池田)	顧客満足度を目的関数とするポート選択法に関する研究
藤原見名子 (奥野, 中谷)	CCD カメラ画像を用いた海面放射輝度の解析
古井 義人 (田原, 勝井, 姫野)	多目的GAを用いたCFD援用船型最適化の実践
本田 矩崇 (大塚)	海洋深層水による藻場修復の研究ー海藻摂餌モデルの改良と影響予測ー
山本 暁子 (加藤(総科), 岸)	海洋生物のDNA塩基配列決定と進化の系統樹作成
村上 勲 (岡田, 坪郷)	矩形平板型浮体の斜波中応答に関する実験的研究
小池 祐輔 (細田)	CAD と CFD を用いたタンカー船型の船尾形状改良ー伝達馬力低減を目指してー
中谷 聡 (細田)	海上における廃棄物処理施設の実現可能性に関する検討

- ★ 生田 方明君は【大阪府立大学同窓会賞】を受賞しました
- ★ 田村 裕貴君は【日本造船学会奨学褒賞】を受賞しました
- ★ 中島 敦子さんは【日本造船学会奨学褒賞, 白鷺賞】を受賞しました
- ★ 大道 典子さんは【海洋システム工学科賞】を受賞しました

## 編集後記

2001年8月に「鷗朋」新生号(第1号)を発売してから、早5年近くとなりました。新生号で紹介しましたが、「鷗」は大学に縁の深い百舌鳥を、「朋」は同門の友を現しています。「鷗朋」が大学のまた同窓生の最新情報をお伝えすべく、若い編集委員の方々と共に企画し編集して来ました(同窓生各位の高齢化も考慮、郵送料が許す範囲で文字も大きくしましたし、写真も多用してきました)。大学と同窓生各位とを繋げる情報誌として未だ不十分な点多々あると考えますので皆様の意見をどしどし編集委員会にお寄せください。本号(第八号)の如く鷗朋会が末広がりに益々発展するために同窓生各位の尚一層のご協力をお願い致します。

編集委員長 岩崎 泰典 (大学20期)

鷗朋会ニュース「鷗朋」第8号

2006年4月1日

発行: 鷗朋会 (けきほうかい)

〒599-8531 堺市学園町 1-1  
大阪府立大学大学院工学研究科  
海洋システム工学分野気付

TEL/FAX 072-254-9914

Email: doso@marine.osakafu-u.ac.jp

<http://msweb.marine.osakafu-u.ac.jp/~web01/ob/ob.htm>

郵便振替口座番号 00970-7-126500

加入者名「鷗朋会」

印刷: 株春日